

human

No241

2012/5

医療を通じて人と人とのふれあいを広めるために
ヒューマン(人)と名付けました。



「手作り棒と風船を使ったゲーム」

救急指定・労災指定病院	さくら総合病院	愛知県丹羽郡大口町新宮1-129 (0587)95-6711(代)
老人保健施設	さくら荘	愛知県丹羽郡大口町新宮1-96 (0587)95-6722
訪問看護ステーション	あすかビレッジ	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10(太郎と花子内) (0587)95-8623
ヘルパーステーション	あすかビレッジ	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10(太郎と花子内) (0587)95-8026
居宅介護支援事業所	あすかビレッジ	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10(太郎と花子内) (0587)95-8027
デイケアセンター	御 嶽	愛知県丹羽郡大口町新宮1-129(さくら総合病院2F) (080)5294-5728
有料老人ホーム	太郎と花子	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10 (0587)95-0111



<http://www.ijinkai.or.jp>

E-mail: info@ijinkai.or.jp

「わが闘争—マヒと戦い—」【第四】

大森 澄雄

退院した時、勤務先の二か月間に亘る夏休みは全て残っていた。二三日休養を取った後通院してリハビリに専念し、休みの終わりとともに復職した。

が、間もなく困ったことに気付いた。それは、思考の持続時間が極端に短くなり、長い対象を相手にすることには、大変な苦痛を感じるようになったということである。思案の挙句、研究対象を俳句に絞ることに決めた。これまでにも記したように、俳句は私にとって未知の世界ではなかったのである。そして、俳人といえ

ば、まず石田波郷が頭に浮かんだ。彼は私の最初の研究対象となった私小説家葛西善蔵を高く評価し、葛西の表現には俳句

本来の表現と一致するところがあると読み取って、俳句私小説論を唱えた俳人であり、しかも、昭和四十六年に五十六歳で死ぬまで、日本の戦後の俳壇をリードして来た俳人でもある。私の研究の経緯は省略することにして、成果は平成十二年九月十五日に、『石田波郷』という表題の第三番目の研究書として、上梓することが出来た。翌年三月に定年

退職することによって、新幹線通勤にもピリオッドを打つことになった。

一回目の脳梗塞は、一回目に比べると比較的に軽かった。前回ののように、手足が酷くマヒするということはなかった。しかし、リハビリのA先生には「足に装具をつけないと歩けないかも知れませんか」といわれた。隔月に奈良や京都に行っていた私は、そんな物をつけて旅行をすたくなかった。そこで「退院しても良い」という許可が出ましたら、ご相談しますので、その時ご指導下さい」と応えて、前回同

様積極的にリハビリに専念した。目に見えてマヒの取れた前回に比べると、中々取れなかった。前は五十代の前半、今回は七十代の半ば、筋肉の衰えはどうしようもなかった。しかし、リハビリのA先生にあんなことをいった矢先、私の気性から弱音を吐く訳にはいかなかった。一途にリハビリに没頭した。器具も工夫して使える限りの使い方をした。私の病室は今回も個室であったので、他の人に遠慮する必要はなかった。ベットの下の方の鉄枠にかまっつて、手足の屈伸運動にこつこつと励んだ。歩き初めは、病室の中での伝い歩きだった。前回の方がマヒは酷かったが、入院十六

日目の安静の解けた日には、もう歩くことが出来たのに比べ、今回は同じ日数の安静期間が終わっても、歩く自信はなかった。前回と違って、毎日リハビリの室まで車椅子で行くのを見ていた家内は、私が車椅子の生活に終わるだろうと判断して、大口町のケア・マネージャーに介護の査定を依頼していた。しかし、そのころから徐々にリハビリの効果は現われ始めていた。今回の発病の原因が自らにあることを認めていた私は、ほっとした。

脳外科のN先生から退院の許可が出たのは、入院してから四十日近く経つてからであった。早速リハビリのA先生に報告すると、「足の装具は不要です」といわれ、「旅行の

時に転ばないように」といつて、モンキー・ウォークを教えて下さった。前回の入院の時には、猿の真似はいやだといって看護婦さんを困らせた私も、今回は素直に受け入れることにした。そして、現在も続けている。

入院後六十二日ぶりに退院した。その二日前にケア・マネージャーの査定を受けたところ「支援の1」ということであった。

退院直後から「御嶽」(デイ・ケア)に世話になった。入院していた時同様に、ハードなリハビリに徹した。ケア・マネージャーが続けて三回訪ねて来られた。「御嶽の係の方がみえて『大森さんのリハビリの仕方はハードで危なくて見ておれない』といって帰られました」ということで

あった。二回目までは「ハイ、承知しました」と簡単に応え、そのつもりでいたが、さて、リハビリに取り掛かってみると約束は果たせなかった。三回目に見えた時にやっと「来年の再査定の際には、自立の査定を貰うつもりでいます。マヒとの戦いは時間との戦いだと思えますのでイージーなリハビリはしたくありません。若し事故が起きれば、自損事故として処理してもらって結構です」と家内を立ち合わせて返事をした。ケア・マネージャーはいくらか安心して帰られた。

自立のまま
あの世に行きたし
白椿
奈良男
御嶽のFさんからは「せめて六か月間は自立でいて下さい」といわれた。既に、あれから三年の歳月が経っている。Fさんのことばは、私の性格をよく見据えた上での、私を挑発したことばだと心得ている。
なお、命を大切にすることは必要だが、大切にすぎる人には、リハビリは不向きのものである。(注・奈良男は私の俳号である)

私が自立になったことは、むろんいうまでもない。

ごあいさつ

外科医長 星野伸晃

はじめまして。平成24年3月より消化器病・外傷センターに赴任しました星野伸晃と申します。専門は消化器外科になります。

平成16年に神戸大学を卒業し、そのまま神戸で2年間研修医をしていました。その後に地元である愛知県に戻り、名古屋第二赤十字病院、豊橋市民病院、名古屋大学医学部附属病院を経て、さくら総合病院に勤務することとなりました。早いものですでに医師生活も9年目に突入しました。

医者に転勤はつきものです。ですから、転勤のたびにその地で有名な場所を訪れたり、名物を食べに行き、仕事の合間には訪れた勤務地を存分に楽しむようにしてきました。なかでも、多くの日本人がそうであるように、私も桜が大好きです。さまざまな場所で勤務してきましたが、ほぼ毎年その地で有名な場所にお花見に行きました。名古屋では山崎川、豊橋では豊橋公園、そして先日、五条川にお花見に行ってきました。「桜の町」大口町の名のとおりきれいな桜が満開でした。その「さくら」の名のつく、さくら総合病院で勤務できることを大変光栄に思います。

これまでは消化器癌や腹部救急疾患の手術治療を中心に医療を行ってきました。これまでの経験を活かしつつ、より地域の皆様のお役に立てるように、専門に関わらず診療の幅を広げていきたいと考えております。まだまだ不慣れな点が多く、いまだに時々院内で迷っていますが、なにとぞよろしくお願いいたします。

第15回 「健康を守る教室」

- テ ー マ : 『ペインクリニックって何?』
&セラバンドを使用した体操
- 日 時 : 平成24年5月26日 土曜日
13:00~14:00 (受付12:30~)
- 場 所 : 新館1F
- 講 師 : 麻酔科 和田医師
理学療法士 磯村
- 参 加 料 : 無料
- お問合わせ : 受付窓口もしくは医療連携室
Tel 0587-95-0015



当院では週に1日「ペインクリニック外来」を行っています。ペインクリニックとは痛みを減らす治療を専門とする診療科ですが、具体的にどんな治療をしているのでしょうか。また痛みとはそもそも何なのか。担当の麻酔科医師より詳しくご説明させていただきます。
つらい痛みにお悩みの方は是非、この機会にご参加ください。

※健康を守る教室の体操コーナーでおなじみのセラバンドを健康教室終了後に下記価格で販売をいたします。ご希望の方はお申し出下さい。 黄色(弱)400円 緑色(中)460円 青色(強)520円

新しい療養病棟を目指して

コンドル4b病棟主任 近藤良美

当病棟は急性期治療が安定された患者さん、リハビリ訓練後在宅退院を目指している患者さんへの看護を提供する療養病棟です。

私がコンドル4b病棟に配属されてこの4月で3年目を迎えます。当初に比べ、患者さんの層も変化し、比較的ADLの高い方が多くなりました。3月から療養生活に楽しみと活気そして在宅退院への支援を目的に、レクリエーション療法を開始しましたのでご紹介いたします。

療養医療では、慢性の病気を持たれた方も寝たきりにならないよう、体のリハビリと心のリハビリが必要です。心のリハビリがレクリエーションであったり、四季の行事であったり、日々の体操や楽しい会話、散歩などです。今回リハビリテーション科と合同で週に2回のレクリエーションをはじめました。音楽に合わせた指体操や棒体操、折り紙やカルタなどの物作り、テーブルサッカーやトランプなどの集団ゲーム、老人ホーム太郎と花子で蓮池や庭の散策などなど、知恵を出し合い日々工夫をしています。回数を重ねるごとにスタッフ間でアイデアが飛び出し、少しずつですが形になってきました。参加される患者さん達の笑顔が嬉しいです。まだまだ始めたばかりのレクリエーションですが、ご家族の方も一緒にご参加いただけるものにしたいと思って取り組んでいます。

最後になりますが、コンドル4bは新しい療養病棟に変わっていかうとしています。しかしながら、私と今東の病棟主任はまだまだ未熟で至らない点多々あると思います。

今後、病棟スタッフと一丸となって頑張っていくので、患者さんをはじめご家族の皆さん、他職種の方々のご指導をよろしくお願いいたします。



さくら荘

デイケアスタッフ 加藤円香

昨年の10月から、さくら荘のデイケアスタッフとして勤務しています。早いもので半年が過ぎました。

私は、介護職は初めての為、ご利用者さんや周りの皆さんにご迷惑をかけながら一つずつ勉強させて頂いています。

最近徐々に業務にも慣れてきて、少しだけ廻りが見えるようになってきました。

当初は、利用者さんに少しでも役に立ちたいと焦って空回りばかりしていましたが、ほんの些細な事で利用者さんから「ありがとう」の言葉をかけて頂き、その言葉で元気を頂いている自分自身に気づく事が出来ました。

「元気になってもらいたい」「元気を与えたい」と思っていました。実は私の方が「元気を頂いていた」と気づきました。

ご高齢のご利用者さんが多く来荘されますが、「こうしたい」と強い意志を持って頑張られている方々にもたくさんお会いします。

ご利用者の皆さんのそんな姿から学び、一日一日を大切に過ごしていきたいと感じています。

皆さんの立場になって少しでもお役に立てるよう、日々努力していきます。

